

第4次泉大津市総合計画（案）に対する 市民等の意見・提案と泉大津市の考え方

- 1 募集期間 平成26年10月15日（水）から平成26年11月12日（水）まで
- 2 提出方法 郵送、ファックス、電子メールまたは企画調整課へ持参
- 3 提出人数 11人
- 4 提出件数 22件
- 5 主なご意見と市の考え方

No	意見・提言の概要	市の考え方
1	<p>（冒頭）</p> <p>総合計画がどういうものか、理解しにくい中で、「はじめに」のページは、計画の概要や策定の過程がよく理解できる。市民に理解してもらいたいという市の姿勢が表れている。</p>	<p>総合計画のめざすべき姿の実現のためには、まず、より多くの人に本計画を知っていただくことが重要と考えたところです。そのため「はじめに」のページは、第4次総合計画の概要や策定過程などについて、あらゆる年代層の方が理解しやすい平易な表現としたところです。行政の示す計画の冒頭に寄せ、このような市民に呼びかける事例はあまり見られないと思います。総合計画が市民の身近なものとなるよう検討した結果です。</p>
2	<p>（冒頭）</p> <p>市の職員が専門家からの助言や指導を受けながら話し合いを重ねたとあるが、もう少し詳しく記載してはどうか。市の主役は市民であるが、多くの業務は、職員の専門的な知識や取組のもとに進められている。職員の取組は、もっと市民に知ってもらい評価される必要があると思う。</p>	<p>ご意見として、参考にさせていただきます。なお、策定経過については、巻末資料として、各会議の実施概要一覧を掲載します。</p>

3	<p>(総論)</p> <p>税収と住民サービスとのバランスを考え、10 万人都市をめざすことが理想ではあるが、やはり人口減少は避けられない問題であり、現実を見据え、実行可能な計画としている点は評価できる。</p>	<p>国立社会保障・人口問題研究所の推計によると日本全国の市町村と同様、本市の人口は減少すると予測されており、今後は急激な人口増加が見込めない状況ですが、人口推移や人口構造の変化を見据え、10 年後のめざすべき将来像の実現に取り組みます。</p>
4	<p>(総論)</p> <p>どのようなことでも計画をたて、それに沿って進めていく必要がある。市の総合計画は途切れており、現在策定中とあるが遅いぐらいだ。</p>	<p>市内外の情勢により、第 3 次総合計画に続く次期計画の速やかな策定には至らなかったところです。しかし、総合的かつ計画的な市政運営を図るため、市の将来のあり方を展望し、都市経営の根幹をなす総合計画は必要であるとの判断から、平成 25 年 7 月から第 4 次総計の策定に取り掛かったところです。第 3 次計画の策定期間は、延べ 38 ケ月でしたが、第 4 次計画は、市民の直接参加などに取り組みつつも、その策定期間を 21 ケ月とし、鋭意策定中です。</p>
5	<p>(基本構想)</p> <p>今までとは異なり、市民の意見が言える場の設置など、市民と行政が、共に今後のまちづくりについて考えることは意義がある。</p> <p>これまで行政だけで進められていたこのような計画が幅広い階層、特にこれからの市を担う世代から多くの意見を聴くことにより、市民協働の試みがどのような形になっていくのか楽しみである。</p> <p>無作為の中から市民を集めた市民会議や大学生会議、中学生会議を開催したこと、将来像を市民会議の提案をもとに決めたことは、本市では、今までに無い取組で非常に画期的である。市の将来は市民の声を聴いて決めるという市長の考えが行き渡っている結果と評価し、賛同する。</p>	<p>直接的な市民参加は本計画の特長の一つです。計画の策定段階から市民と行政の協働・連携の具現化として、中学生会議や大学生会議、市民会議を開催し、本市がめざすまちづくりについての提言を基に、まちの将来像を設定しています。評価・賛同のご意見は、このような市の取組にご理解をいただいていると確信したところです。</p> <p>なお、計画策定後は、本計画を広く市民等へ周知するとともに、市民や団体・事業者などと行政による協働のもと、10 年後のめざすべき姿の実現に取り組みます。</p>

	<p>市民会議や大学生会議など、市民等を巻き込んだ検討手法は、面白い試みである。</p> <p>市民参加を特徴として大きく取り上げているが、まだまだ、ほんの一部の参加ではないか。大勢の市民は、自分に直接的な利害が生じないものは関心を示さず、これはいくらPRしてもあまり変わらない。そんな中、市はあの手この手とアイデアと知恵を絞って市民参加を募っているところは涙ぐましい。</p>	
6	<p>(基本構想)</p> <p>市民参画の試みが、簡単に纏められていることは残念である。ここでの意見等が、本計画で、どのように具現化されているのか、丁寧な説明が必要ではないか。</p>	<p>市民参画の取組概要をご理解いただけるよう、巻末資料として、市民会議を含む各会議の実施概要一覧を掲載します。</p> <p>なお、まちの将来像やまちづくりの方向性は、すべて、市民会議等からの提案や意見を具現化したものです。</p>
7	<p>(基本構想)</p> <p>高齢化社会、人口減少社会に突入する中、魅力あるまちづくりを行うためには、あらゆるマンパワーを総動員する必要がある、計画（案）に示されている4つのまちづくりの方向性は間違っていないと考える。</p>	<p>4つのまちづくりの方向性に沿って基本施策を進めていくために、すべての基本施策において、市民、団体・事業者、行政などの役割を記載し、各施策の推進について明記したところです。</p>
8	<p>(基本構想)</p> <p>少子高齢化の進展や年齢、男女、障がい者や子育て、介護など、色々な事を踏まえ、本市のめざすべき姿を明確にしたうえで、策定いただきたい。</p>	<p>本市を取り巻く環境については、7～10ページに記載する人口減少や少子高齢化の更なる進行などであると認識しています。このような状況を踏まえたうえで、市民の提案をもとにした市の将来像をはじめとし、各基本施策ごとにめざすべき姿を明記しています。</p>
9	<p>(基本計画)</p> <p>基本計画では、施策ごとに成果指標を設定し、目標値を明記しており、非常に評価できる。</p>	<p>成果指標の設定は、本計画の特長の一つです。事業の進捗状況を判断する目安として取り入れたところです。</p>

10	<p>(基本計画)</p> <p>目標値を取り入れたことは評価できるが、その数値設定があまりにもゆるく、目標値に対して、達成することだけが目的化している気がする。</p>	<p>成果指標の目標値の設定にあたっては、市民満足度調査で得られた現状値をもとに、既存計画や上位・関連計画での位置づけ、外的要因や事業効果等の積み上げ、トレンド（すう勢値）や他都市との比較、行政運営上のめざすべき方向などを踏まえ、専門家委員の助言のもと、職員が議論を重ね設定したものです。目標値を 100% に設定することについても議論されましたが、現実に即した数値を採用したところです。</p> <p>計画策定後は、定期的に数値を把握、評価し、PDCAサイクルによる進捗管理を行うことで、めざす姿の実現に取り組みます。</p>
11	<p>(基本計画)</p> <p>協働の考え方について、市民、団体・事業者、行政の役割をそれぞれ設定しており、基本理念のひとつである「共創」を具体的にわかりやすく明記している点は、行政だけが計画を推進、実現をするものではないということ、よく表現しており評価できる。</p>	<p>4 つのまちづくりの方向性に沿って基本施策を進めていくために、すべての基本施策において、市民、団体・事業者、行政などの役割を記載し、各施策の推進について明記したところです。</p>
12	<p>(基本計画)</p> <p>基本施策が非常に細かく書かれており、丁寧とも言えるが、細かすぎてかえってわかりにくく、文字数も多く読みにくい。もう少し簡潔にしてはどうか。</p>	<p>基本計画については、基本構想で掲げるまちの将来像の実現に向けて、専門家委員の助言のもと、職員が議論を重ね設定したものです。ご指摘のとおり、基本施策によっては、記載内容が多いものがありますが、レイアウトやデザインを検討し、広く市民等にご理解いただけるよう工夫します。</p>

13	<p>(基本計画)</p> <p>基本計画のすべての施策が重要ではあるが、今後、行政が最重要であると思われる施策を第1章「力を合わせて市民の笑顔があふれるまちづくり」としていると推測する。人口減少時代のまちづくりを考えると、一定、正しいとは思いますが、6ページの市民アンケート調査結果では、第1章の施策は、どれも重要度が平均以下となっている。つまり、行政と市民とで、重要度の温度差があるのは顕著であり、この点は、基本構想にも記述はあるが、広報で丁寧な説明が必要ではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、「力を合わせて市民の笑顔があふれるまちづくり」に属する基本施策については、本計画策定に向けた市民満足度調査結果において、重要度が平均以下となっています。</p> <p>しかしながら、近年の社会情勢の変化など本市を取り巻く環境を見据えるとともに、直接的な市民参加による意見もあることから、「力を合わせて市民の笑顔があふれるまちづくり」に属する「市民参画・協働」「地域コミュニティ」を、すべてのまちづくりの方向性に係る施策として位置づけたところです。</p> <p>これらの施策を推進する中で、市民と行政との共通認識を図っていきます。</p>
14	<p>(基本計画)</p> <p>少子高齢化が問題とあるが、これだけ世の中が便利となり、医学の発達や娯楽の氾濫、権利主張のある現状では、止めることは不可能であり、これにどう向き合っていくかである。子育てサービスを増やしても、出生率が下げ止まる可能性はあるが、上がることはない。また、医療、保険制度についても、持続できる制度に向けて、思い切った改革が必要だと思う。10年後の目標やイメージは大切であるが、限られた税金であり、背伸びをせず、辛抱することも訴えながら、安心感、安定感のあるまちづくりをめざしていただきたい。</p>	<p>総論の「人口減少社会を前提としたまちづくり」において、高度成長期等につくられた制度や仕組み、ライフスタイルを変革する契機とする、将来、大きな課題となりそうなものに対して今からしっかりと備える、新たな価値の創造によって持続的発展をめざすといった視点を持って取り組むこととしています。</p> <p>なお、その中で、医療費や介護需要の増大を緩やかにするために、健診事業の推進や、ライフステージに応じた健康づくり、高齢者の生きがいづくりの推進をし、備えることとしています。</p> <p>また、健全で効率的・効果的な財政運営を行うとともに、税源涵養等の歳入の確保に努めます。</p>

15	<p>(基本計画)</p> <p>本市は幼保教育や福祉政策が行き届いていることから、他市の住民も良いイメージを持っていると聞くことがよくある。それらの長所は、もっとアピールしていくべきだと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、就学前教育や福祉政策について、市外へも本市の施策や取組を発信し、本市の認知度向上に努める必要があると認識しています。</p> <p>また、各事業を実施する際には基本施策の「市政の情報発信」における広報活動の充実を念頭に、認知度向上に取り組めます。</p>
16	<p>(基本計画)</p> <p>基本施策の「環境保全」に海を意識した内容を盛り込むべきではないか。それは、海に面しているまちの宿命だと感じている。</p>	<p>基本施策の「環境保全」及び「上下水道」では、公害防止対策の推進、公共下水道の汚水整備推進、水洗化の普及促進を明記しており、海や河川等を意識した取組として、公共用水域（海や河川等）の水質汚濁の防止を目的とした施策を盛り込んでいます。</p>
17	<p>(基本計画)</p> <p>フェニックス地区は可能性を秘めた市民の宝であり、5年、10年先を見越せば、そのポテンシャルは無限大に広がっていると思う。臨海部の施策は「コンパクトで居心地のよいまちづくり」だけではなく、すべてに渡っているのではないか。また、海は、学び集い安らぎの場であり、市民生活に密接に関係している。もっと海との繋がりを基本施策に示すことにより、誇り高い泉大津の港を創造していくことができると思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、フェニックス地区を含む臨海地域については、本市の重要な地域資源のひとつであると認識しています。</p> <p>基本施策の「臨海部」では、新たな企業の誘致、港湾の利活用の促進、市民に親しまれる港湾づくりを明記しており、泉大津港のさらなる振興発展に向けて、港湾の利活用促進施策を展開するとともに、市民に親しまれる美しい港湾づくりに向けて、各施策の推進に取り組めます。</p>
18	<p>(基本計画)</p> <p>港の発展に対して、市長自身がトップセールスを実施しており、本市の港のことを考えていると感じている。また、今後の港の計画が進むと確信している。10年後、20年後、本市で起業して良かったと思えるような市になるように、企業として協力していきたい。</p>	<p>基本施策の「臨海部」及び「商工業」に掲げる本市のめざす姿の実現に向けて、協働の考え方のもと、各施策の推進に取り組めます。</p>

19	<p>(基本計画)</p> <p>まちの発展には、住民へのソフト・ハードの環境整備と同様に、商工業が重要であるとする。行政が果たせる役割は少ないかもしれないが、その重要性や取組内容及び手法を盛り込んでいただきたい。また、本市の主要産業と言われるものは、毛布を含め、多くが市場規模を縮小している。紡績、カーペット、資材、セーター、カットソーの方が市場規模は大きいという認識のうえ、取組をお願いする。併せて、民間活力の重視と活用をお願いする。これまでと違った方法、違った方向でのやり方で、商工業は必ず良くなると考えており、この支援についても考えていただきたい。</p>	<p>基本施策の「商工業」の現況と課題において、「産官学の連携など、これまでの枠を超えた様々な連携」などが課題であると認識しています。</p> <p>また、本市の主要産業については、施策の展開方向に「地域産業の振興」として掲げ、地場産業である繊維産業や、地域に密着した既存産業が環境の変化等に十分対応し、競争力を維持・向上していくよう、様々な視点に立った取組を展開します。</p> <p>また、民間活力の重視と活用については、施策の展開方向「商業・サービス業の振興」、商工業の支援としては「地域産業の振興」、「産業の担い手となる人材の育成と確保」として明記し、各施策の推進に取り組みます。</p>
20	<p>(基本計画)</p> <p>小さな事でも実効性のある計画としていただきたい。</p> <p>計画に掲げた施策を着実に実行し、市民だけでなく、他の自治体の住民も移り住みたくするような市になっていただきたい。</p> <p>有意義な計画を策定し、着実に実行していただくことを期待する。</p> <p>ぜひ、目標が達成されるよう、進捗管理をお願いする。</p> <p>それぞれの生活内容や立場によって要求や思いは変わるため、計画内容がよくできているかどうかは、正直わからない。言えることは、色々な経験や意見の上に作った計画であるなら、本計画を「正」として、みんなで信じて計画に沿って進んでいくことだ。</p>	<p>計画策定後は、毎年、事務事業を評価する仕組みを活用し、総合計画の進捗管理を行っていきます。事務事業は、事業ごとに予算、事業の目的、目標数値などが記入され、これをPDCAサイクルに沿って運用、評価を行っていくことが、総合計画の施策の実行や目標達成につながります。</p> <p>また、計画を進めるためには行政だけでなく、市民、団体・事業者がそれぞれの役割を認識し、取り組んでいくことが重要であると考えています。</p>

21	<p>(その他)</p> <p>4回目の計画とあるが、現在までの3回の計画内容及び取組状況は、市民へどのように周知したのか。</p>	<p>第1次、第2次の総合計画については、現在のようなホームページやフェイスブックといった情報発信手段が無かったため、市の広報紙などを活用し周知を図りました。第3次総合計画は、冊子のほか、概要版を作成し、図書館などの公共施設での閲覧対応に取り組みました。</p> <p>なお、第4次総合計画は、策定段階から直接的な市民参画に取り組むことで、幅広く市民のご意見をいただくとともに、広報紙やホームページ、フェイスブックの活用、シンポジウムの開催などにより、広く市民等への周知に取り組んでいるところです。</p>
22	<p>(その他)</p> <p>市民には、100ページに及ぶ計画内容を理解することは困難で、なじみにくい。市民にわかりやすい概要版を作成いただきたい。</p>	<p>概要版の作成を行うとともに、本編についても、レイアウトやデザインの検討、参考資料の追加など、広くご理解いただけるよう検討します。</p>